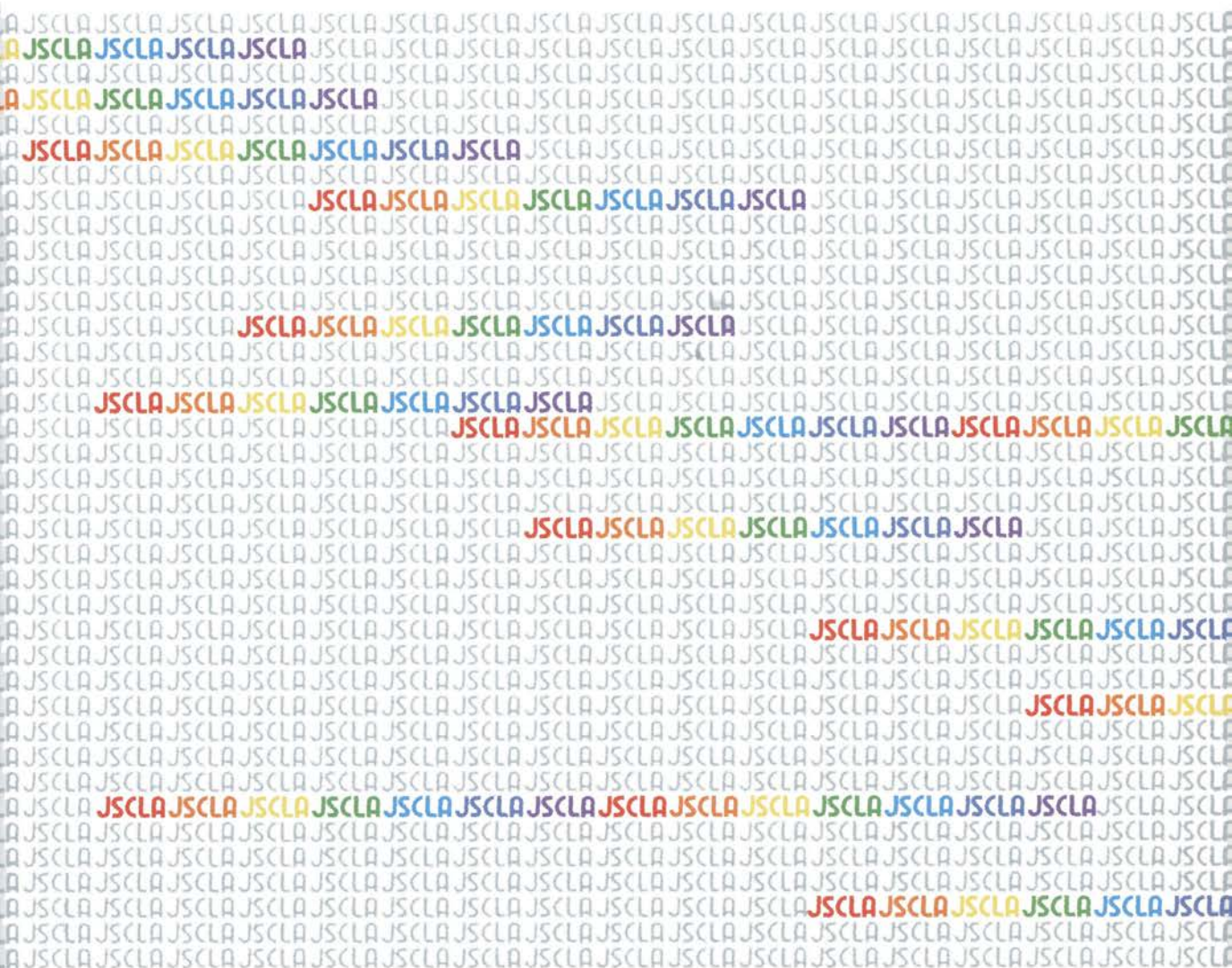


JSCLA



JAPAN
SOCIETY
FOR
CLINICAL
LABORATORY
AUTOMATION

25th 臨床検査の
自動化とともに

日本臨床検査自動化振興会
Japanese Association for Clinical Laboratory Automation

CONTENTS

JSCLA創成期の経緯	2
JSCLA25年をふりかえって	3
日本臨床検査自動化学会展示会年表(1)	4
機器・試薬セミナー参加状況	8
日本臨床検査自動化学会春季セミナーのあゆみ	10
出展会社と来場者の内訳	12
日本臨床検査自動化学会展示会年表(2)	14
ノーベル医学生理学賞受賞者一覧	22
業務会・業務委員一覧	24
日本臨床検査自動化振興会役員名簿	25



臨床検査の 自動化とともに

会 長 茂 手 木 皓 喜

1993年9月16～18日、第25回という節目に当たる日本臨床検査自動化学会大会が、幕張メッセ・国際会議場ならびに国際展示場で開催される運びとなったことは、関係者一同大きな喜びとするところです。本学会が自動化研究会として正式に発足したのは1969年で、学会と改称したのは1981年で、通算して今年は25年目になるわけです。さてここで本学会の創成の経緯について簡単に紹介したいと思います。

1953年にSkeggsによりオートアナライザーが開発され、わが国にも1957年に導入されました。このオートアナライザーが、わが臨床検査領域に与えた影響は大きく、正に革命的と評価され、世界各国の検査の自動化を刺激しました。わが国においては当時ようやく臨床検査の重要性がみとめられ、相つぐ中央検査室の設立、それに伴う検査件数の増大は目をみはるものがあり、その対応に各施設とも苦慮しておりました。特に件数の多い血糖、尿素窒素、Na、K、Cl、などは実用的な大量処理の方法がなく、人海戦術で処理するのがやっとでした。オートアナライザーの応用によりこれらの悩みは一挙に解決しました。1時間あたりの検査数が40～60件で、当時としては画期的なものでした。オートアナライザーの有用性、効率性は広くみとめられ、2～3年で10数台に達しました。そして、その方法、試薬、メンテナンスなどを含めて、いかに有効に使用するかを検討、討議するため1961年にユーザーの有志がオートアナライザー研究会を組織し、年3～4回の会合が持たれ、この研究会が本学会へと移行したわけです。本研究会の運営は本機の輸入元であるアメリカンコマーシャル社（現、アムコ社）の支持を得ました。本研究会は有志の会合から進展して、徳島、新潟などで行われた日本臨床病理学会でのナイトセミナーにも参加するようになりました。オートアナライザーは周知の如く連続フロー方式の機器で、当時のわが国においては唯一の自動分析機でしたが、1963年頃よりディスクリット方式の機器が開発輸入され、実用の段階に達するようになりました。そして、オートアナライザーと同様、これらディスクリット方式の機器も検討、討議の対象として、オートアナライザー研究会を発展的に解消して、臨床化学自動

分析研究会を1965年に発足させました。そして1968～1969年、わが国においても日立、東芝、オリンパス、日本電子などがディスクリット方式の機器の開発を始め、自動化の関心は深まり、生化学検査領域以外の自動化機器も登場してきました。オートアナライザーによる免疫学的検査、血球計数機、それに日科機や東亜医用電子による血球自動計数機などです。このように生化学以外の自動化機器の臨床検査への導入時期に合わせて臨床化学自動分析研究会を解消して、1969年、臨床検査自動化研究会を発足させました。

そして第一回の全国大会を東京の番町共済会館で開催しました。機器の展示業者は5社で、ロビーや楽屋に展示されたのを覚えております。参加人員は200人位だったと思います。

この第1回を境に、また時代の要望とマッチして自動化機器の開発、研究、普及はめざましく、今日の隆盛へと驚進してきたわけです。

さて、研究会の運営ですが、会員数も少なく収入もわずかで、展示業者のご協力でもかかっておりましたが、その展示料集めが一苦労で、担当委員が各ブースをまわってその場で協力金を得ておりました。ある年などは電気料を考慮しなかったで、後になって請求され赤字になったこともありました。

その後本研究会は、その性格から言って産学共同での運営が望ましいとの機運が高まり、第5回目から展示業務委員を選任し、学術大会委員と協同で運営にあたることとなり、展示業務委員会が発足しました。

第1回の委員代表は東芝メディカルの今井省吾氏で、がっちりした展示業務会の会則を作成され、それにしたがって以後の展示業務がスムーズに行われるようになったことは周知のところ です。

その後、会員の強い要望もあり、1981年日本臨床検査自動化学会（Japan Society for Clinical Laboratory Automation、略名JSCLA）として今日に至っております。

以上簡単ですが学会の創立時の経緯をのべました。

■JSCLA 25年をふりかえって

日本臨床検査自動化学会(JSCLA)ならびに併催の展示会は、今年で第25回を迎えることになりました。特に展示会につきましては、この25年間に学会と共に目覚ましい発展をとげて参りましたが、これもひとえに当初から展示会を指導された諸先生方および出展頂いた会員各社の絶大なご協力の賜物と、厚く御礼申し上げる次第であります。

近年の目覚ましい医療の進歩は、臨床診断医学領域における検査機器、試薬のすばらしい発展に負うところが極めて大きいと言えます。この検査機器、試薬の普及を目的とした展示会は、1969(昭和44)年に発足した日本臨床検査自動化研究会(1981年日本臨床検査自動化学会と改称)が目標とする産学協同の結実を目指して、展示会スタートの当初から大きな期待を担って運営されて参りました。

当初、研究会の先生方が担当された展示会の運営は、1973(昭和48)年の第5回大会開催時に研究会の協力組織として業務会が結成されたのを契機に、業務会がその運営を担当することになりました。業務会は、臨床検査機器、試薬を製造、輸入、販売する企業からなっており、振興会に改組した現在では、会員会社150社、展示参加企業も130社を数えるまでに成長致しました。1988(昭和63)年には国際交流の一環として米国臨床化学会(AACC)と友好関係を結び、1991(平成3)年からはAACCの展示会に出展するなど、日米の学会、企業間の情報交流も密接になって参りました。また、海外からの展示会見学者が近年急増の傾向にありますので、英文展示案内の拡充など海外向け資料の作成を強化しております。

このように業務会の事業が拡大されてきましたので、1992(平成4)年2月にJSCLA業務会を発展的に改組して、日本臨床検査自動化振興会(JACLA)をスタートさせました。JACLAは業務会の展示業務を引継ぐと共に、臨床検査に携わる人材の育成、学術の振興等の諸事業の企画、推進を目指しております。本年はその最初の事業として、臨床検査技師の養成機関で使用する教材用ビデオテープを制作致しました。

本年、第25回という大きな節目を迎えるに当たって、JACLAとして14,000m²もの広さの展示場で、AACCに次ぐ名実共にわが国で最大規模の展示を開催できますことは、この25年間のJSCLAの諸先生方およびJACLAの諸先達方のご指導、ご協力によるものと重ねて深く感謝する次第であります。

ここに25年を振りかえって、年表とそのときどきの関連事項を併記して、皆様方の思い出の糸口になるようにと思い、小冊子を作成した次第であります。

■日本臨床検査自動化学会展示会年表(1)

大会年度	大会長	展示会場	出展 会社数	入場者数	学会一般 演題数	一般演題からの話題の機器				備 考
						生 化 学	血 液	免 疫	細 菌	
第 1 回 1969(昭44)	櫻田 良精	番 町 共 済 会 館	5 (社)	(人)	16	●バイユニカムAC-600 ●Auto Chemist ●日立M-400 ●SMA 12/60				●オートアナライザー研究会、 臨床化学自動分析研究 会が発展的解消して本 研究会が発足。
第 2 回 1970(昭45)	櫻田 良精	日 消 ホ ー ル	11		33	●オリンパスACA ●Clnalyzer System ●オートラブ ●Hycel Mark X	●血小板計数			
第 3 回 1971(昭46)	櫻田 良精	全 共 連 ビ ル	22		29	●Vickers MC300 ●Zymat340 ●ロボットケミスト	●東亜自動血球計算器			
第 4 回 1972(昭47)	奥田 清	大 阪 OMM ビ ル	32		52	●LAC-060-00 ●ENZYMAT	●Coulter Thrombocounter			●展示会で赤字が出て、世 話会社で負担した。 ●学会が組織化される。
第 5 回 1973(昭48)	石井 暢	都 立 産 業 会 館 (大手町)	51	1,800	57	●SMAC ●GEMSAEC FAST ANALYZER ●Centrifchem System ●Roto Chem II	●Hemalog ●Coulter Counter Model S			●展示業務会が発足。 ●国税庁で印紙免除の許可 を得る。
第 6 回 1974(昭49)	茂手木皓喜	都 立 産 業 会 館 (大手町)	55	2,000	53	●2波長測光法(日立701) ●ABA-100 ●Du pont aca				●酵素を利用した臨床検査 薬の開発が盛んになる。 ●アルバイト女性ユニホーム 着用。
第 7 回 1975(昭50)	熊原 雄一	大阪国際見本市会館	54	2,200	76	●Oil-3000 ●AKES ●Greiner Selective ●Analyzer GSA-II				
第 8 回 1976(昭51)	春日 誠次	都 立 産 業 会 館 (大手町)	49	2,300	80	●HMA-1600 ●Flieger 240R ●HI-STAT700 ●JCAシリーズ	●東亜CC-710 ●コーニング白血球自動分類 ●HEMATRAK			●展示目録を作成し参加者 への便宜をはかる。
第 9 回 1977(昭52)	斉藤 正行	都 立 産 業 会 館 (大手町)	65	2,400	72	●TBA360 ●ACA601 ●JCA-S16 ●日立716 ●Hycel Super 17 ●RaBA-Super ●クリニラブ(尿) ●日立678(尿)	●Hemalog D ●COAGULATION ANALYZER600 ●CLOT DIGITIMTE 20 ●FIBROMAT ●COAG-A-MATE			●臨床化学会と合同の展示 会を行う。
第 10 回 1978(昭53)	櫻田 良精 茂手木皓喜	都 立 産 業 会 館 (大手町)	62	2,400	123	●Lactate Analyzer ●JCA-H2C4R ●Giltod3500 System ●Gemeni ●IRMCA-III ●Coulter Chemistry ●NIKON エンザイムアナライザー	●Cell analyzer ●Microx ●Colysagraph ●Coagulometer ●Biomatic2000 ●Micro-Coagulometer	●Laser Nephelometer	●Bactometer	
第 11 回 1979(昭54)	林 長蔵	大阪国際見本市会館 大阪商工会議所ビル	81	2,800	175	●CL-720, CL-700 ●日立726, 日立706 ●Abbott VP ●KDAモニター ●TBA880 ●Microlyzer ●オリンパス6000R ●ユニフレット(尿) ●クリニテック(尿)	●ELT-8 ●Coulter S-Counter S-plus ●HAEMA-COUNTER ●ULTRA-FLO-100 ●Diff-3 ●Coag-stat ●Lancer-Coagulyzer	●Laser-Nephelometer ●ZD801A		
第 12 回 1980(昭55)	大森 昭三	科 学 技 術 館	88	2,900	133	●COBAS-BIO ●CL-12 ●LKB-2086型MK-II			●自動細菌検査装置MS-2システム ●Autobac MTS	●都立産業会館(大手町) が閉館になり科学技術 館に移る。

大会年度	大会長	展示会場	出 会 社 数	入場者数	学会一般 演 題 数	一般演題からの話題の機器				備 考
						生 化 学	血 液	免 疫	細 菌	
第 13 回 1981(昭56)	清瀬 関	科 学 技 術 館	(社) 82	(人) 3,300	147	●テクトロンXA ●グライナーG-300 ●JCA-VS300 ●ABA200 ●TBA880 ●日立705 ●Hycel M ●パラレルアナライザー ●ピタロンXYP	●ABSP(Automatic Blood Snear Proccssor) ●CC-800,CC-720 ●Baker 810	●Behring Laser Nephelometer ●ベックマン イムノ ケミストリーシステム ●Hyland DISC120 System	●Program GLC ●Auto-Microbic System	●日本臨床検査自動化学 会と改称。 ●業務会の東西一本化。 ●コマーシャルセミナーを設け、注目 される機器の話題提供を始める。
第 14 回 1982(昭57)	馬場 茂明	神戸ポートアイランド 国 際 展 示 場	93	3,300	136	●AUTOA _{1C} TM ●HA-8110(HbA _{1c}) ●CL-30 ●オリンパスAu500 ●Dry Chemistry(フジ、エクタケム、セラライザー) ●KID301改良型ZD-40	●Coagmaster ●PDA-410 ●CELL DYN 800 ●Coulter S Plus II ●ELT-800 ●THMS(H-6000) ●Hematrak	●LA-System ●LPIA-System ●TDX-System		
第 15 回 1983(昭58)	高原喜八郎	科 学 技 術 館	94	3,500	170	●日立736 ●JCA-VX1000 ●オリンパスACA8000 ●SSR(オイルテクノロジー) ●GEMSTAR ●アンコール ●Urine Glucose Auto & STATUG1121(尿)	●Coatron ●CA100	●Syva System AC-5000	●Vitek AMS-120GPIシステム ●Dynateck Microfluor System	●コマーシャルセミナーをナ イトセミナーと改称。 ●台風が来襲し展示終了を 1時間くり上げる。
第 16 回 1984(昭59)	丹羽 正治	科 学 技 術 館	95	3,600	188	●TBA-80S 480 ●日立723 ●JCA VS500 ●ASTRA-8 ●CL-20 ●Gliford Im-pact 400	●E-5000 ●Flow Cytometry ●Biomatic B-10 ●STRATUS	●レーザーコアグロメータ ●LC101		
第 17 回 1985(昭60)	山崎晴一郎	神戸ポートアイランド 国 際 展 示 場	88	3,500	186	●COBAS-FARA ●Au-5000 ●Dry-chemistry(フジドライケム、 エクタケム、レフプロトンシステム)	●CC-780 ●日立806 ●オムロンHEG-AS ●Coag-stat Auto II ●Aggreccorder II	●ES22 ●EL-1000 ●MARCENTIA MR36	●COBAS BACT	●今井省吾氏(東芝メディ カル)顕彰される。
第 18 回 1986(昭61)	山中 学	科 学 技 術 館	95	3,600	192	●CL-7000 ●日立7050 ●VISION System ●COBAS MIRA ●TBA-60S ●JCA-RX30 ●スーパーオーションアナライザー(尿)	●コアグAメイトX2型 ●デュアルチャンネル型 ●CA-4000 ●E-4000 ●Coulter S-plus IV ●THMS/H-1	●LA-2000 ●LPIA300 ●PAMIA10 ●BNA ●PK300	●自動細菌同定システム ●ATB32GN	●ナイトセミナーをイブニン グセッションとして学会プ ログラムに入れる。 ●榎田良精先生ご逝去 ●学会場(教育会館)に右翼乱入。
第 19 回 1987(昭62)	水田 亘	神戸ポートアイランド 国 際 展 示 場	94	3,800	221	●Paramax ●Assist ●Dimension 380 ●YELLOWIRIS(尿) ●Dry chemistry(京都第一)	●日立8200 ●LC-114 ●Coulter S-plus STKR ●M-2000 ●Thrombostat 4000 ●FASTEC 901	●Array Protein System ●HC-100	●MICRO SCANシステム	●イブニングセッションを機 器試薬セミナーと改称す る。
第 20 回 1988(昭63)	茂手木皓喜	神戸ポートアイランド 国 際 展 示 場	100	4,000	213	●Easy Analyzer 6160 ●Monarck ●Super Z 818	●コアグマスターII ●Automated Coagulation Laboratory(ACL) ●NE-8000	●Quick Turbo ●DCセンサー ●ケミルミ ●IB-500 ●ES600 ●PK310 ●LX-3000	●BACTEC-NR-660 ●Colony Analyzer Macrossystem	●第40回AACC (New Orleans)調査団 を派遣。
第 21 回 1989(平 1)	佐々木禎一	科 学 技 術 館	124	4,800	235	●SMAC III ●JCA-RS1200	●NE-7000 ●COULTER VCS	●IMX ●EL-1200 ●POSEIDON II ●AIA-1200 ●MK-200 ●エルジア・オート ●VISTA	●センシタイターシステム ●abac6600	●第41回AACC(Atlanta) 展示会視察団編成(以 降毎年)参加者30名。
第 22 回 1990(平 2)	工藤 肇	幕 張 メ ッ セ 場 国 際 展 示 場	144	5,900	257	●SYNCHRON ●CL-7300 ●TBA 80M ●日立7250	●CA-5000 ●MCA 110 ●HEMA TRACER 801 ●QBC II ●COULTER STKS	●CTE-5000 ●ROBOSTAT II ●RNDX100		●第42回AACC(San Francisco)参加者30名。 ●幕張メッセ会場が完成。 以降、神戸と幕張で開催。 ●展示会は第37回日本臨床病理 学会総合学術展示会と共催。
第 23 回 1991(平 3)	金井 正光	幕 張 メ ッ セ 場 国 際 展 示 場	131	7,000	261	●Au 5200 ●日立7070	●CELL-DYN 3000	●QuARTUS ●AIA600 ●PAMIA20 ●LPIA200 ●アマライトシステム ●ACSI80 ●ルミコアアナライザー-SA300 ●ルミノマスター ●ES300	●Auto SCAN-W/A ●VIDAS	●第43回AACC (Washington)JSCLA として展示開始。参加者33 名。
第 24 回 1992(平 4)	高橋 浩	神戸ポートアイランド 国 際 展 示 場	132	7,300	265	●グルテステE ●EA 05 ●SA 4230 ●TBA-80FR	●MICRO DIFF18	●ルミクイック JIA-FS150 ●LX-2500 ●PAMIA300 ●ルミバルス1200	●BACTEC 9240	●第44回AACC (Chicago)参加者32名。 ●神戸国際展示場 増設される。
第 25 回 1993(平 5)	服部 理男	幕 張 メ ッ セ 場 国 際 展 示 場	127		304	●日立7170 ●US-Alpha(尿)	●コールターONYXシリーズ ●KoaquLab X ●コアグレックス700	●ルミスボットAL-1000 ●ルミライザー ●Access Immunoassaysystem	●VITAL	●第45回AACC (New York)参加者32 名。 ●第15回IFCC (オーストラリア)

■機器・試薬セミナー参加状況

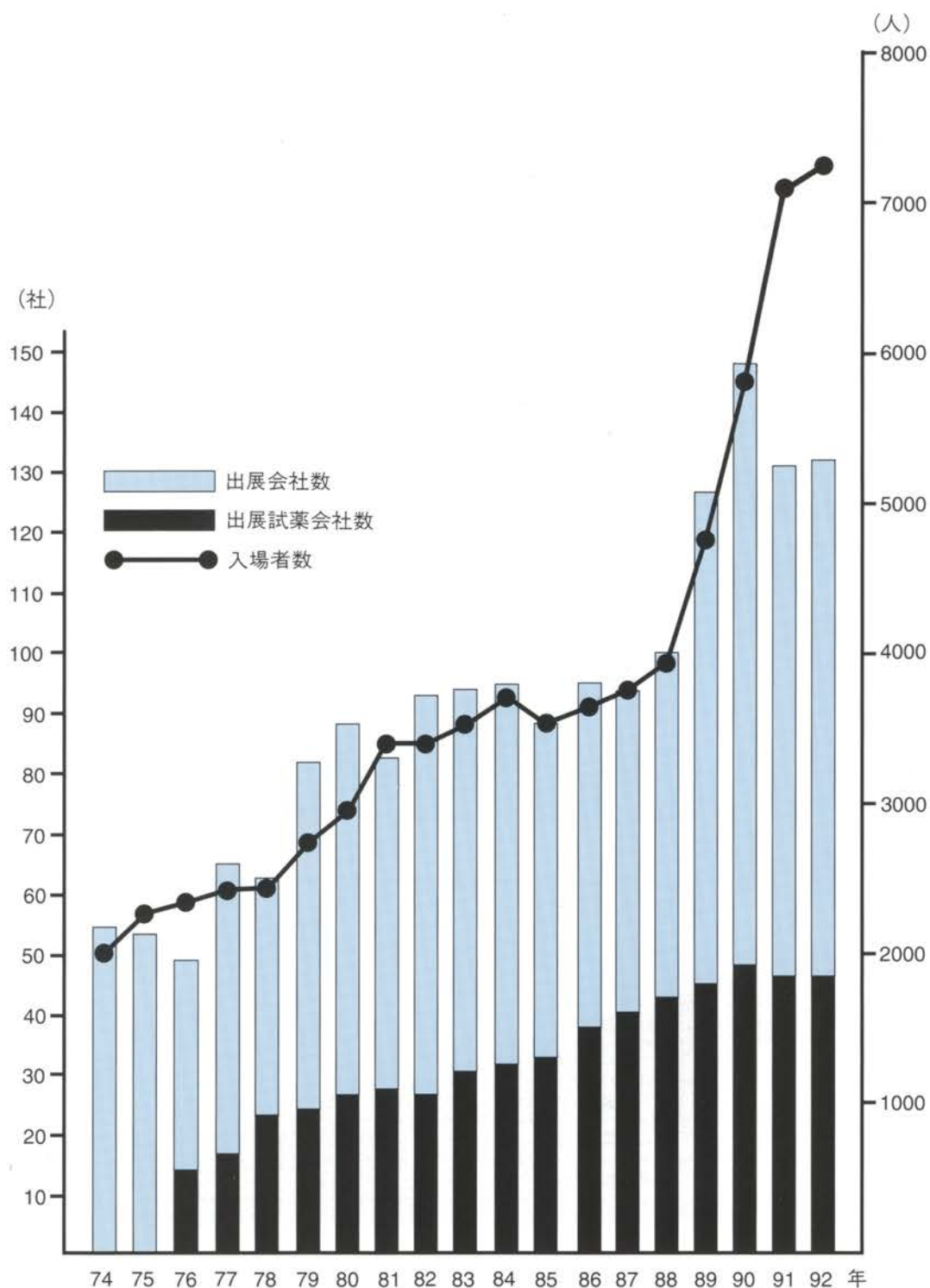
	セミナー	テーマ・参加状況
第 13 回	コマーシャルセミナー	自動化学分析装置…………… 6 社 尿自動検査システム …………… 1 社 全自動電気泳動装置…………… 1 社 自動分析装置用試薬…………… 3 社 HbA _{1c} …………… 1 社 多項目自動血球計数装置…………… 1 社 細菌の自動化装置…………… 2 社 免疫血清測定装置…………… 4 社
第 15 回	ナイトセミナー	白血球自動分類装置の臨床的評価…………… 5 社 多項目多検体処理自動化学分析装置におけるリアルタイムの モニタリングと精度管理 …………… 3 社 HPLCの医学・生化学への応用 …………… 1 社 医用分野におけるイオンクロマトグラフィーの応用 …………… 1 社 パーソナルコンピューターを利用したリアルタイム精度管理 …………… 2 社 New Frontier Technology …………… 3 社
第 16 回	ナイトセミナー	緊急検査とシステム化…………… 4 社 ドライケミストリー …………… 3 社 マイコン利用の精度管理 …………… 2 社 血中薬物分析…………… 2 社 民間検査センターと自動化 …………… 4 社 血液凝固検査の自動化…………… 2 社
第 17 回	ナイトセミナー	イオン電極の現状と問題点…………… 6 社 イムノアッセイの自動化 …………… 5 社 腫瘍マーカー…………… 3 社 スーパーマルチ自動分析装置…………… 4 社 マイコン使用による精度管理…………… 3 社 RIAの精度管理…………… 3 社
第 18 回	イブニングセッション	臨床検査における血球粒度分布の意義…………… 3 社 臨床検査と新素材…………… 3 社 HbA _{1c} の自動分析…………… 3 社 イムノアッセイの自動化…………… 7 社 ドライケミストリー…………… 5 社 新しい生化学自動分析機…………… 4 社
第 19 回	機器・試薬セミナー	免疫血清反応自動装置…………… 9 社 ドライケミストリー…………… 4 社 血球のフローサイトメトリー…………… 4 社 尿の自動分析機…………… 3 社 血清蛋白全自動電気泳動装置…………… 3 社 新技術・新素材…………… 3 社

	セミナー	テーマ・参加状況
第 20 回	機器・試薬セミナー	免疫化学……………19社 ドライケミストリー ……5社 細菌学的検査の自動機器……………4社 フローサイトメトリー……………3社
第 21 回	機器・試薬セミナー	免疫検査の自動化……………12社 ドライケミストリー ……6社 生化学自動分析における特殊分析のアプリケーション……………3社 凝固・線溶阻止物質検査の自動化……………4社 新技術・新素材……………3社
第 22 回	機器・試薬セミナー	スーパーマルチおよび搬送システム前処理システム……………5社 免疫血清検査……………14社 ドライケミストリー……………7社 白血球自動分類装置……………5社 微生物検査……………3社
第 23 回	機器・試薬セミナー	各種免疫血清検査自動化測定装置の開発と評価……………9社 前処理と後処理・検体の前処理からデータバンクまで……………6社 スーパーマルチ自動分析装置……………4社 新しいアレルギー検査法の開発と特長……………6社 血液ガス・電解質測定の評価……………3社 DNAと染色体検査……………5社
第 24 回	機器・試薬セミナー	前処理システム……………4社 ミニシステム(小規模システム)……………5社 自動分析装置と試薬およびコントロール物質……………5社 微生物検査……………4社 新技術・新素材……………3社 生理機能検査の自動化……………6社 免疫血清検査……………9社
第 25 回	機器・試薬セミナー	免疫血清検査……………7社 血液凝固検査……………4社 生化学検査……………4社 ラボシステム……………4社 化学発光……………6社 尿検査……………4社 新技術……………5社

■日本臨床検査自動化学会春季セミナーのあゆみ

回 数	開 催 日	開催地	大 会 長	出席会社数		主なるシンポ、講演など
				機器	試薬	
第1回	昭和62年5月30日	盛岡	岩手医大 伊藤忠一	18	10	免疫血清検査の 将来展望と自動化
第2回	昭和63年5月21日	松江	島根医大 遠藤治郎	17	2	臨床検査の 自動化—その発想の転換
第3回	平成元年6月24日	熊本	熊本大 岡部紘明	23	3	緊急検査の意義と自動化
第4回	平成2年5月26日	金沢	金沢大 松原藤継	16	7	検査室の自動化における精度管理
第5回	平成3年6月1日	長崎	長崎大 白井敏明	15	4	診療現場における臨床検査
第6回	平成4年4月11日	新潟	東新潟病院 屋形 稔	10	4	免疫血清検査の標準化
第7回	平成5年3月13日	水戸	筑波大 中井利昭	10	9	21世紀の病院システム化への提言 感染症のDNA診断の問題点
第8回	平成6年5月8日	宜野湾 (沖縄)	琉球大 外間政哲			(予定)

■出展会社と来場者の推移



■アンケートに見る日本臨床検査自動化学会展示会

■来場者の職種(%)

来場者	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回
医 師	2.9	1.8	2.3	1.6	1.5
臨床衛生検査技師	32.3	34.6	39.0	28.6	30.9
薬 剤 師	2.5	2.9	3.4	2.5	2.6
看 護 婦	0	0.1	0.2	0.1	0.2
事 務 職 員	2.5	3.6	3.7	5.3	4.2
研究開発職員	16.7	18.4	16.8	17.5	14.2
営 業 職 員	29.8	25.1	22.0	26.4	31.2
学 生	0.3	0.2	0.3	0.9	0.8
そ の 他	13.0	13.3	12.2	17.1	14.4

■来場者の勤務先(%)

病 院	28.4	28.3	32.4	23.8	26.1
検 査 セ ン タ ー	8.0	8.4	9.8	7.1	8.4
保 健 所	0.2	0.5	0.6	0.5	0.2
官公庁研究機関	0.6	0.7	1.0	1.0	0.7
民間企業研究機関	8.1	8.1	7.9	8.0	5.5
メーカー・商社	40.1	40.9	36.7	43.5	43.5
デ ィ ー ラ ー	10.1	6.6	6.2	6.7	8.8
そ の 他	4.8	6.4	6.0	9.4	6.7

■見学のポイント(%)

生化学検査機器	27.8	27.5	25.1	23.6	24.1
免疫血清 "	20.6	21.2	20.4	19.9	20.9
血 液 "	13.5	15.7	14.9	13.9	14.5
細 菌 "	5.2	5.7	5.6	5.8	5.5
尿 "	6.7	6.0	6.5	6.2	6.9
病 理 "	2.5	2.5	2.8	2.9	2.7
生 理 "	2.5	2.6	3.0	3.1	3.2
そ の 他 "	3.0	2.7	2.9	4.6	3.2
シ ス テ ム	11.5	9.9	11.1	11.6	11.4
試 薬	6.7	5.4	6.8	5.6	5.6
無 記 入	—	0.9	1.0	2.8	2.0

■来場者の勤務地
(人数)

来場者	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回
北海道	84	80	110	116	119
東北	101	169	269	279	182
東京	765	1,609	2,061	3,307	1,378
関東・甲信越	370	840	1,343	1,911	636
東海・北陸	304	303	403	513	629
近畿	1,159	487	674	757	3,368
中国・四国	247	144	203	236	545
九州・沖縄	147	141	195	243	317
無記入	78	44	53	147	59
合計	3,255	3,817	5,311	7,509	7,233

■見学目的(%)

購入検討の資料収集	35.4	26.2	26.7	21.8	21.6
業務上の資料収集	57.5	64.4	64.6	65.3	65.9
展示目録の取得	4.4	5.1	4.7	4.8	4.4
その他	2.7	4.3	4.0	8.0	8.1

■日本臨床検査自動化学会展示会年表（2）

大会年度	科 学 技 術	医 学・医 療	一 般 社 会	出 版 物	ヒット商品	流 行 語	テレビ・映画・ヒットソング
第 1 回 1969(昭44)	●原子力船「むつ」進水式。 ●アポロ1号月面に着陸。 ●旧国鉄技術研究所、超電導方式のリニアモーターの研究開発スタート。	●人工甘味料チクロの有害性が判明し、全面使用禁止。	●安田講堂事件 学園紛争沈静化。 ●初の公害白書発表。 ●東名高速道路全通。(着工S37.5) 東京～西宮 536.4km	●知的生産の技術 (梅棹忠夫) ●赤頭巾ちゃん気をつけて(庄司薫)	●セイコー・クォーツ (水晶腕時計)	●エコノミックアニマル ●断絶 ●やったぜベイベー	●ローズマリーの赤ちゃん ●男はつらいよ ●橋のない川 ●黒ネコのタンゴ (皆川おさむ)
第 2 回 1970(昭45)	●国産初の人工衛星「おおすみ」打上げ。 ●アメリカでテレビ電話の営業開始。 ●全機能にICを用いたシステム370(IBM)を発売。	●スモン病の原因には整腸剤キノホルムが関係と発表。 ●臨床検査技師・衛生検査技師等に関する法律公布。	●日本万国博覧会開幕。「人類の進歩と調和」6,420万人入場。 ●日本の呼称を「ニッポン」に統一。 ●第11回国勢調査 104,665,171人。世界第7位。 ●公害関係14法成立。公害問題多発。	●公害の政治学 (宇井純) ●未来の衝撃 (A・トフラー)	●サントリーオールド 二本箸作戦	●生活がかかっている ●しらける ●おぬしやるな	●トラトラトラ ●戦争と人間 ●走れコタロー (山本コウタロウ)
第 3 回 1971(昭46)	●インテル社(米)が汎用マイクロプロセッサ4004を開発、今日のパソコンブームの基礎を築く。	●平均寿命、男69.22才。女74.71才。 ●戦後2回目のベビーブーム197万5,000人出生。 ●臨床検査技師第1回国家試験実施。	●国際石油資本各社、日本石油各社に原油の値上げ通告。 ●ニクソンショック。ドル防衛のための新経済政策発表。暫定的円の変動相場制移行。1\$ = 360円固定相場制終る。1\$ = 308円(46.12.20) ●中国の国連復帰決定。 ●環境庁発足。 ●米の生産過剰で減反政策を取る。	●日本人とユダヤ人 (イザヤ・ベンダサン) ●春の坂道 (山岡荘八)	●ジーンズ ●電子ジャー	●脱サラ ●かんばらなくっちゃ ●ディスカバー・ジャパン	●肝っ玉かあさん ●私の城下町 (小柳ルミコ) ●知床旅情 (加藤登紀子)
第 4 回 1972(昭47)	●原子時刻を協定世界時として採用。 ●旧電電公社、ファクシミリ送受信に電話回線開放。	●厚生省、難病総合対策発表。(難病の指定枠を拡大) ●たばこに「健康のため吸いすぎに注意しましょう」と表示することを決定。	●日米沖縄返還協定発効。 ●日中共同声明調印。日中国交正常化成る。 ●パンダ初公開。 ●札幌オリンピック。(第11回冬季) ●道交法改正で初心者マーク登場。 ●高松塚古墳発見。	●恍惚の人 (有吉佐和子) ●日本列島改造論 (田中角栄)	●マンション ●カップヌードル	●恍惚の人 ●ナウな ●のんびりゆこうよ ●恥ずかしながら	●ゴッドファーザー ●死刑台のメロデー ●瀬戸の花嫁 (小柳ルミコ)
第 5 回 1973(昭48)	●江崎玲於奈氏ノーベル物理学賞受賞。	●老人福祉法一部改正施行。(70才以上の老人医療無料化)	●円変動相場制に移行。1\$ = 271円20銭(48.2.14) ●第1次石油ショック。(OAPECの生産削減、供給制限で、石油価格が暴騰。 ●100%資本自由化決定。	●日本沈没 (小松左京) ●華麗なる一族 (山崎豊子)	●ゴキブリホイホイ ●電気餅つき器	●お客さまは神様です ●じっと我慢の子 ●日本沈没	●北の家族 ●仮面ライダー ●刑事コロンボ ●草原の輝き (アグネス・チャン)
第 6 回 1974(昭49)	●原子力船「むつ」母港を出発、放射線漏れて運転中止。 ●ヒューレット・パッカード社(米)ガリウム・ヒ素集積回路を開発。 ●ICの完全自由化。	●HB抗原がDNA型ウイルスであることを確認。(志方ら) ●ガン治療で「免疫療法」が進む。	●狂乱物価。 ●佐藤栄作前首相ノーベル平和賞受賞。 ●国土庁発足。 ●省エネ対策進む。	●カモメ・ジョナサン (リチャード・バック) ●ノストラダムスの大予言 (五島勉)	●オセロ ●ジグソーパズル	●諸悪の根源 ●それはいえる ●日記には書いておこう	●エマニエル夫人 ●襟裳岬(森進一)

大会年度	科 学 技 術	医 学・医 療	一 般 社 会	出 版 物	ヒット商品	流 行 語	テレビ・映画・ヒットソング
第 7 回 1975(昭50)	●ソ連自動惑星間ステーション「金星9・10号」金星(ビーナス)に軟着陸。 ●核融合研究体制整う。	●川崎病急増。(これまでの患者1万人) ●日本臨床病理同学院設立。	●経企庁、49年度GNP前年比0.6%減、戦後初のマイナス成長と発表。 ●ベトナム戦争終結。 ●第12回国勢調査 111,933,818人。 ●沖縄国際海洋博始まる。	●複合汚染(有吉佐和子) ●収容所列島(ソルジェニーツイン)	●紅茶キノコ ●使い捨てライター	●ひと味ちがいます ●わたし作るひとばく食べるひと ●おじやま虫	●欽ちゃんのドンとやってみよう ●ジョーズ ●およげ！たいやきくん(子門真人) ●シクラメンのかほり(布施明)
第 8 回 1976(昭51)	●内閣に地震予知推進本部を設置し、地震予知体制をつくる。 ●火星無人探査機米・バイキング1号、火星着陸に成功。	●鹿児島に五つ子誕生。 ●大腿四頭筋拘縮症の原因は安易な注射と発表(日本小児科学会)。 ●臨床病理学会、日本医学会への加入承認される。	●ロッキード事件起こる。 ●偏差値時代。 ●ソ連 200カイリ漁業専管水域設定を布告。 ●新幹線「こだま」に禁煙車登場。	●毎日が日曜日(城山三郎) ●限りなく透明に近いブルー(村上龍)	●かん保険 ●女性用ブーツ	●金権政治 ●はしゃぎすぎ ●記憶にございません	●愛のコリーダ ●北の宿から(都はるみ) ●ベツバー警部(ピンク・レディー)
第 9 回 1977(昭52)	●日本初の静止衛星「きく2号」打上げ。 ●細胞融合で耐病性・味のよいタバコの新品種開発。(旧日本専売公社中央研究所) ●ポテトとトマトの雑種を細胞融合で作る。ポマトと命名。(メルヒヤース・西独) ●リニアモーターカー浮上に成功。(日向市・旧国鉄実験線)	●健康づくり対策(厚生省)	●東京大学、創立100年記念(4.12)。 ●曲尺、鯨尺の製造販売を許可する。(34年メートル法に統一) ●サラ金破産者の会結成。	●人間の証明(森村誠一) ●ルーツ(A・ヘイリー)	●布団乾燥機 ●カラオケ	●落ちこぼれ ●ルーツ ●話がピーマン	●幸福の黄色いハンカチ ●宇宙戦艦ヤマト ●雨やどり(さだまさし) ●津軽海峡冬景色(石川さゆり)
第 10 回 1978(昭53)	●日本語ワープロ登場。	●はしかの予防接種義務化。 ●遺伝子組み替え技術をもって、ヒト・インシュリンの合成に成功。(シティ・オブ・ホープ医学センター(米)の板倉ら)	●日中平和友好条約調印。 ●禁煙、嫌煙運動が盛んに。 ●新東京国際空港開港。 ●1\$ = 199円10銭(7月)、170円台(10月)	●不確実性の時代(ガルブレイス) ●頭のいい税金の本(野末陳平)	●TVゲーム ●サバンナRX-7	●窓際族 ●逆転の時代 ●嫌煙権	●キタキツネ物語 ●スターウォーズ ●君のひとみは一万ボルト(アリス)
第 11 回 1979(昭54)	●IBM 4300発表。(第4世代コンピュータ時代の開幕) ●旧国鉄・リニアモーターカーの走行テストで時速504km 記録。 ●スリーマイル島原子力発電所(米)大量の放射能漏れ事故。	●薬事二法案成立。(新薬の承認基準が厳しくなる) ●WHO、天然痘終息を宣言。	●共通一次学力試験開始。 ●元号法案可決「昭和」以降も元号が続くことになる。 ●ガソリンスタンドの日曜祝日全面休業へ。 ●東京サミットが開催。	●ジャパン・アズ・ナンバーワン(ヴォーゲル) ●天中殺入門(和泉宗章)	●超音波美顔器 ●35ミリ自動焦点カメラ	●インベーダー ●ウサギ小屋 ●省エネ	●銀河鉄道999 ●エイリアン ●関白宣言(さだまさし) ●魅せられて(ジュディ・オング)
第 12 回 1980(昭55)	●世界最大のヘリオトロン装置完成。(京大) ●天気予報に確率予報を導入。	●食品の殺菌・漂白に過酸化水素の使用を禁止。(厚生省) ●遺伝子組かえてヒト・インターフェロン量産に成功。(癌研)	●第13回国勢調査 117,057,485人。 ●北京からパンダ上野動物園に寄贈。(ホアンホアン) ●第二次石油ショック。	●項羽と劉邦(司馬遼太郎) ●蒼い時(山口百恵)	●ウォークマン ●ルービックキューブ	●クレマー家庭 ●竹の子族 ●カラスの勝手にしや	●シルクロード ●クレイマー・クレイマー ●雨の幕情(八代亜紀) ●贈る言葉(武田鉄矢)

大会年度	科 学 技 術	医 学・医 療	一 般 社 会	出 版 物	ヒット商品	流 行 語	テレビ・映画・ヒットソング
第 13 回 1981(昭56)	●京大福井謙一教授ノーベル化学賞受賞。 ●太陽熱発電成功。(香川県) ●通産省、第5世代コンピュータ構想を発表。	●診療報酬のうち検査料大幅に変更。(マルメ導入)――医療費の抑制始まる―― ●核移植で3匹のマウス(クローン動物)を作る。(イルメンゼー〔スイス〕)	●神戸ポートアイランド博覧会(ポートピア81)開幕。 ●行財政改革に関する第一次答申(臨時行政調査会)、(老人医療無料制の廃止等) ●ヤンバルクイナ(学名 ラルス・オキナワエ)発見。(沖縄本島与那覇岳原生林)	●窓ぎわのトットちゃん(黒柳徹子) ●なんとなくクリスタル(田中康夫)	●ダウン(羽毛)もの ●パソコン	●クリスタル族 ●はちのひとさし ●ぶりっ子	●おんな太閤記 ●エレファントマン ●スニーカーぶるーす(近藤真彦)
第 14 回 1982(昭57)	●音声多重放送開始。 ●旧国鉄のリニアモーターカー、世界で初の有人浮上走行に成功。 ●コンピュータのプログラムは著作物に当たるという初めての判断を示す。(東京地裁)	●老人保険法公布。 ●遺伝子組かえて作られたインシュリン発売。(アメリカ) ●日本医師会長・武見太郎氏引退。(昭和32年就任23年続く)	●校内暴力急増。 ●500円硬貨発行。 ●東北・上越新幹線開業。 ●行財政改革第二次答申(国鉄・電電、専売の分割民営化)。	●悪魔の飽食(森村誠一) ●吉里吉里人(井上ひさし)	●ボカリスエット ●ツーピースボール	●風見鶏 ●心身症 ●ネクラ・ネアカ ●ほとんどビョーキ	●蒲田行進曲 ●E・T ●ブッシュマン ●聖母たちのララバイ(岩崎宏美)
第 15 回 1983(昭58)	●我が国初の実用静止通信衛星「さくら2号a」打上げ。	●わが国初の体外受精児誕生。(東北大学)	●サラ金規制二法案成立。 ●大韓航空機撃墜事件。 ●東京ディズニーランド開業(千葉県浦安市)	●写真週刊誌「フォーカス」 ●探偵物語(赤川次郎)	●東京ディズニーランド ●焼酎	●いいとも ●おしん ●気くばり ●やるっきゃない	●おしん ●戦場のメリークリスマス ●矢切の渡し(細川たかし)
第 16 回 1984(昭59)	●旧電電公社INS実験開始。(三鷹市) ●衛星放送開始。 ●「陽子崩壊」の現象をつかまえる。	●健保法改正。医療費の抑制が強化。(本人9割、退職者医療制度) ●厚生省、衛生3局組織改革。 ●からし蓮根で11人死亡。 ●厚生省「人口白書」発表。 日本人の平均寿命 男 74.2才 女 79.8才	●新札発行(1万円、五千円、千円) ●グリコ・森永脅迫事件。 ●オーストラリアからコアラが来る。	●金魂巻(渡辺和博) ●愛のごとく(渡辺淳一)	●ゴルフ宅急便 ●電子体温計・血圧計	●パフォーマンス ●くれない族 ●金・金	●お葬式 ●おはん ●長良川艶歌(五木ひろし)
第 17 回 1985(昭60)	●国産初的大型ジェット機「飛鳥」が試験飛行に成功。 ●日本人宇宙飛行士の誕生。(毛利、土井、内藤さんら3人)	●新しい脳死の判定基準発表。(厚生省) ●医療法改正。(地域医療計画) ●国産初の遺伝子組換えB型肝炎ワクチンの臨床試験を開始。 ●日本臨床検査標準協議会(JCCLS)発足。	●阪神優勝フィーバー。 ●つくば科学博開幕。 ●放送大学開校。 ●いじめ多発。 ●日本電信電話(NTT)、日本たばこ産業発足。 ●男女雇用機会均等法公布。 ●第14回国勢調査 121,048,923人。昭和生れが1億人を越える。	●アイアコッカ(アイアコッカ) ●マナー雑誌	●ミノルタα-7000 ●禁煙用パイプ	●イッキ ●タイガースフィーバー ●やらせ・いじめ	●落つくし ●乱 ●俺あ東京さくづき(吉幾三)
第 18 回 1986(昭61)	●スペースシャトル「チャレンジャー」空中爆発。 ●世界最大の電子・陽電子型加速器「トリスタン」が初実験に成功。(高エネルギー物理研究所) ●ソ連、チェルノブイリ原発事故起きる。	●エイズ禍世界に広がる。 ●男女「産み分け」実現。(慶応大) ●国民年金法改正。(基礎年金導入) ●老人保健法改正。(負担引き上げ、老人保健施設) ●組換え技術応用医薬品製造のための指針。(厚生省) ●献血400ml採血と成分採血の実施。	●ハレーすい星地球に大接近。(ハレーブームにわく) ●円急騰。1\$=153円台 ●都心地価急騰。	●マンガ日本経済入門(石の森章太郎) ●知価革命(堺屋太一)	●テレホンカード ●ファミコン	●新人類 ●変体少女文字 ●義理チョコ	●はね駒 ●子猫物語

大会年度	科 学 技 術	医 学・医 療	一 般 社 会	出 版 物	ヒット商品	流 行 語	テレビ・映画・ヒットソング
第 19 回 1987(昭62)	●世界で初めて「ニュートリノ」をつかまえる。(神岡鉱山地下1,000m) ●マゼラン星雲に超新星が出現。 ●新素材による高温超電導物質開発ブーム。 ●利根川進教授ノーベル医学生理学賞受賞。	●「喫煙と健康」報告書発表。(厚生省・たばこ白書) ●「脳死に関する見解」を発表。(日本学術会議) ●国民医療総合対策本部中間報告発表。 ●臨床工学技士法制定。 ●エイズ予防財団設立。	●青函トンネル開通。 ●農産物の自由化など日本市場の開放を強く要求される。 ●1 \$ = 123円台(12月) ●国鉄民営化。	●サラダ記念日(依万智) ●塀の中の懲りない面々(安部譲二)	●家庭用パン焼器 ●スーパードライ	●財テク ●地上げ屋	●伊達政宗 ●マルサの女 ●アンタッチャブル
第 20 回 1988(昭63)	●32ビットパソコン時代の幕開け。 ●ペーパー電池実用化。 ●自然界に「第5,6の力」の存在検証。	●「脳死と臓器移植についての最終報告」を答申。(日本医師会・生命倫理懇談会) ●従来の心臓死のほかに脳の死(不可逆的機能喪失)をもってその人間の個体死と認めてよい。 ●診療報酬改定。検査料の抜本的改定を行う。(検体検査は判断料と実施料に分離) ●遺伝子組換え HBワクチンの販売許可。	●本四連絡瀬戸大橋開通。 ●1 \$ = 121円53銭(12月) ●東京ドーム完成。 ●牛肉・オレンジ自由化。	●ノルウエーの森(村上春樹)	●中国産育毛剤101(101毛髪再生精) ●ひまわり商品	●ベレストロイカ ●ハナモク ●カイワレ族	●テレビで報道番組ブーム ●ラストエンペラー ●敦煌
第 21 回 1989(平元)	●ボイジャー海王星に最接近。 ●常温核融合熱駆け巡る。 ●地球環境の保全に関心向く。	●C型ウイルスとらえる検査薬開発される。(米国) ●初の生体肝移植が行われる。(島根医大) ●凍結受精乱移植による双子の女児誕生。(東京歯大) ●老人保健法見直し。	●昭和天皇崩御、平成年号スタート。 ●消費税導入。 ●ベルリンの壁崩壊。 ●1 \$ = 143円40銭(12月)	●キッチン・うたかた／サンクチュアリ(吉本ばなな) ●下天は夢か(津本陽)	●コードレス多機能電話 ●国産高級車	●オバタリアン ●茶魔語大流行	●魔女のたつきゅうびん ●レインマン
第 22 回 1990(平2)	●ソ連宇宙船「ソユーズTM11」で日本人秋山豊寛初の宇宙飛行。 ●水の沸点99.974度に決まる。(国際度量衡総会)。 ●原子操作技術の幕開け。(走査型トンネル顕微鏡)。 ●森重文教授フィールズ賞(数学のノーベル賞)受賞(日本人で3人目)。	●病原性大腸菌「0-157」型による集団下痢が発生。 ●臓器移植、脳死容認へ動く。 ●日ロ医療協力やけどの坊や回復。	●皇太子明仁第125代天皇に即位。 ●東西ドイツ統一。 ●米ソ、大幅軍縮合意。 ●1 \$ = 130円30銭(12月) ●第15回国勢調査 122,744,952人 ●雲仙・普賢岳で大規模な火砕流発生。	●真夜中は別の顔(シドニー・シエルダン) ●文学部唯野教授(筒井康隆)	●ノートブック型パソコン	●ちびまる子現象	●おどるボンボリン ●天と天地と ●バック・トゥ・ザ・フューチャー 2
第 23 回 1991(平3)	●世界最小の電子素子開発。(日立) ●宇宙論ブーム。「無」から生まれた宇宙。宇宙は無数に存在するなど。 ●太陽系以外の惑星発見。	●MRSA(メチシリン耐性ブドウ球菌)感染症広がる。 ●大腸がん抑制遺伝子を解明。 ●アルツハイマー病で決定的役割をはたす酵素を発見。	●湾岸戦争勃発(1月17日～2月27日) ●ソ連で「8月政変」共産党崩壊。 ●金融不祥事が続発。バブル経済の崩壊。 ●1 \$ = 125円10銭(12月)	●宮沢りえ写真集ーサンタ・フェー(篠山紀信) ●もものかんづめ(さくらももこ)	●カルピスウォーター ●携帯電話	●むかつく ●幸福の科学	●おもいでばろばろ ●ターミネーター 2 ●ニュース番組CNN世界をめぐる
第 24 回 1992(平4)	●米スペースシャトル「エンデバー」で日本人毛利衛初の宇宙飛行。 ●電気自動車、ソーラーカーなど交通新時代へ。 ●計量法改定。	●エイズストップ作戦本部設置。検査体制の強化、予防PR展開。 ●医療法改正。特定機能病院と療養型病床群を制度化。 ●ヒトの遺伝子地図完成。 ●乳がんの原因遺伝子発見。	●地球サミット(国連環境開発会議)開催。 ●暴力団対策法施行。 ●献金疑惑で政局混迷。 ●PKO協力法成立。 ●旧ユーゴ連邦崩壊、内戦激化。 ●1 \$ = 119円65銭(9月)	●複合不況(宮崎義一) ●心理ゲームブーム	●グッドアップブラ ●低カロリー食品ブーム	●はめ殺し ●ミンボー	●紅の豚 ●JFK ●冬彦現象
第 25 回 1993(平5)	●ペルセウス座流星群(スィフトタートルすい星)130年ぶりに出現(8月)	●国民医療費24兆円台に。	●55年政治体制終焉。●1 \$ = 100円時代に(8月) ●皇太子、小和田雅子嬢ご成婚	●女ざかり(丸谷オ一)	●Jリーググッズ	●政治改革 ●Jリーグ	●ジュラシックパーク

ノーベル医学生理学賞受賞者一覧

1901	E・フォン・ベーリング(独)	ジフテリア治療血清の創始
1902	R・ロス(英)	マラリア蚊とマラリア発育環境の発見
1903	N・R・フィンセン(デンマーク)	狼瘡の光線療法
1904	I・P・パヴロフ(ロシア)	消化腺生理学の研究
1905	R・コッホ(独)	細菌学の創始及び諸細菌の発見
1906	C・ゴルジ(伊)、S・R・カハール(スペイン)	神経組織の構造研究
1907	C・L・A・ラブラン(仏)	マラリア寄生原虫の発見
1908	P・エールリヒ(独)	免疫に関する貢献
	I・メチニコフ(仏)	食菌現象発見
1909	T・コッヒャー(スイス)	甲状腺の研究
1910	A・コッセル(独)	蛋白質・核酸の研究
1911	A・グルストランド(スウェーデン)	眼科光学理論の研究
1912	A・カレル(仏)	血管縫合と臓器移植に関する業績
1913	C・リシュ(仏)	過敏症(アナフィラキシー)の研究
1914	R・バラニー(オーストリア)	三半規管と平衡感覚の研究
1915~1918	受賞者なし	
1919	J・ボルデ(ベルギー)	補体結合反応・百日ぜき菌の発見
1920	A・クローグ(デンマーク)	毛細管運動の調節に対する研究
1921	受賞者なし	
1922	A・V・ヒル(英)	筋肉中の熱産生に関する研究
	O・マイヤーホフ(独)	筋肉中の酸素の消費と乳酸産生の研究
1923	F・G・ベントニング(カナダ)、J・J・R・マクロード(英)	インシュリンの研究
1924	W・アイントホーヘン(オランダ)	心電計の発明
1925	受賞者なし	
1926	J・A・G・フィービゲル(デンマーク)	ガン治療の研究
1927	J・W・ヤウレック(オーストリア)	マヒ性痴呆マラリア療法の貢献
1928	C・ニコル(仏)	発疹チフス及び発疹の療法に関する研究
1929	C・エイクマン(オランダ)	神経炎治療に役立つビタミンの研究
	F・G・ホブキンス(英)	成長促進ビタミンの発見
1930	K・ランドシュタイナー(オーストリア)	血液型の発見・研究
1931	O・H・ノールブルク(独)	呼吸酸素の研究
1932	C・S・シェリントン(英)、E・D・エードリアン(英)	神経細胞の機能に関する諸発見
1933	T・H・モルガン(米)	ショウジョウバエの染色体遺伝の研究
1934	G・R・マイメット(米)、W・P・マーフィー(米)、G・H・ホイッブル(米)	貧血治療に関する研究
1935	H・シュペーマン(独)	胎児成長での器官授与効果の研究
1936	H・H・デール(英)、O・レービ(オーストリア)	神経刺激の化学的伝達に関する諸発見
1937	A・フォン・セント・ジェルジー(ハンガリー)	生物学的燃焼における諸発見
1938	C・ハイマンス(ベルギー)	呼吸調節における大動脈機構の研究
1939	G・ドマーク(独)	プロントジール食菌効果の発見(辞退)
1940~1942	受賞者なし	
1943	H・ダム(デンマーク)、E・A・ドイジ(米)	ビタミンKの化学的性質の発見
1944	J・アーランジャー(米)、H・S・ギャッサー(米)	神経繊維機能の研究
1945	A・フレミング(英)、E・B・チェーン(英)、H・W・ブーリ(英)	ペニシリンの発見
1946	H・J・マラー(米)	X線による人工変異の研究
1947	コリ夫妻(米)	グリコーゲンの代謝経路の研究
	B・ウーセイ(アルゼンチン)	粘液腺におけるホルモンの研究
1948	P・ミュラー(スイス)	DDTの研究
1949	W・R・ヘス(スイス)	間脳の機構の発見
	A・E・モニス(ポルトガル)	精神分裂症の前額部神経切断手術の研究
1950	E・C・ケンダル(米)、P・S・ヘンチ(米)、T・ライヒシュタイン(スイス)	リウマチ関節炎の特効薬コチゾンの発見
1951	M・セーラー(南ア)	黄熱病ワクチンの発見
1952	S・A・ワクスマン(米)	ストレプトマイシンの発見
1953	F・A・リップマン(米)	アセチル化の機構解明と補酵素Aの発見

- 1953 H・A・クレブス(英)クエン酸サイクルの発見
- 1954 J・F・エンダース(米)、T・H・ウェラー(米)、F・ロビンス(米)マヒのウイルス培養
- 1955 A・H・テオレル(スウェーデン)酸化酵素の研究
- 1956 A・F・グールナン(米)、W・フォルスマン(独)、D・W・リチャーズ(米)心臓カテーテル法の開発と循環系の病的変化の研究
- 1957 D・ボベ(伊)クラレ作用物質の合成化学・薬理学的研究
- 1958 G・W・ピードル(米)、E・L・テイタム(米)、J・リーダーバーク(米)遺伝子の組換えとバクテリア遺伝物質の研究
- 1959 S・オチョア(米)、A・コンバーク(米)リボ核酸およびデオキシリボ核酸の生理学的合成の機構の発見
- 1960 P・B・メダウォア(英)、F・M・バーネット(オーストラリア)後天的免疫機構の発見
- 1961 G・V・ベケシー(ハンガリー)内耳蝸牛殻刺激の物理構造研究
- 1962 J・D・ワトソン(米)、F・H・C・クリック(英)、M・H・F・ウिल्キンス(英)核酸の分子構造と遺伝子情報の伝達に関する研究
- 1963 A・F・ハックスレー(英)、A・L・ホジキン(英)、J・C・エクルズ(オーストラリア)神経細胞膜の周辺におけるイオン機構の研究
- 1964 K・ブロック(米)、F・リネン(独)コレステロールおよび脂肪酸の研究
- 1965 F・ジャコブ(仏)、A・ルウオフ(仏)、J・モノ(仏)酵素とウイルスの合成に関する遺伝的制御研究
- 1966 E・P・ラウス(米)ウイルスが引き起こす腫瘍の発見
- C・B・ハギンス(米)前立腺がんのホルモン療法に関する発見
- 1967 R・A・グラニット(スウェーデン)、H・K・ハートライン(米)、G・ウォルト(米)視覚の基礎的な化学、生理学的活動の発見
- 1968 R・ホリー(米)、G・コラーナ(米)、M・W・ニレンバーク(米)遺伝の暗号およびタンパク合成の機能解釈の業績
- 1969 M・デルブリュック(米)、A・D・ハーシ(米)、S・E・ルリア(米)ウイルスの複製機構と遺伝的構造における発見
- 1970 B・カッツ(英)、U・V・オイラー(スウェーデン)、J・アクセルロッド(米)神経末梢部の化学物質伝達と貯蔵放出制御の研究
- 1971 R・W・サザランド(米)ホルモン作用の機構に関する研究
- 1972 G・M・イーデルマン(米)、R・B・ポーター(英)抗体の化学構造に関する研究
- 1973 C・F・フリッシュ(オーストリア)、C・ローレンツ(オーストリア)、N・ティンバーゲン(オランダ)比較行動学を創始、人間や動物の社会的行動様式を発見考察した業績
- 1974 A・クロード(ベルギー)、C・R・デデューブ(英)、G・E・パラディ(米)細胞の構造と機能に関する発見
- 1975 D・ボルチモア(米)、H・M・ティン(米)、R・ドルベッコ(英)ガンウイルスと細胞の遺伝物質との相互作用に関する発見
- 1976 B・ブランバーク(米)HB抗原(B型肝炎ウイルス)の発見
- C・ガイジュセク(米)クール病の原因の究明
- 1977 R・ギルミン(米)、A・シャリー(米)、R・ヤロー(米)脳が出すペプチドホルモンの研究
- 1978 W・アーバー(スイス)、D・ネイサンズ(米)、H・O・スミス(米)制限酵素発見と分子遺伝学への応用
- 1979 A・M・コーマック(米)、G・N・ハウンスフィールド(英)レントゲン断層写真撮影装置(CT)の開発
- 1980 J・ドーセ(仏)、B・ベナセラフ(米)、G・スネル(米)生体の免疫反応における遺伝学的研究
- 1981 R・W・スベリー(米)大脳左右半球の機能分化を解明
- D・H・ヒューベル(米)、T・N・ウィーゼル(米)脳の視覚情報処理機構を解明
- 1982 S・K・ベルイストローム(スウェーデン)プロスタグランディンの分離・化学構造決定
- B・I・サミュエルソン(スウェーデン)プロスタグランディンの作用機構解明
- J・R・ペイン(英)血小板凝集を抑制するプロスタサイクリンの発見
- 1983 B・マクリントック(米)動く遺伝因子の発見
- 1984 N・K・イエルネ(英)、G・J・F・ケーラー(独)、C・ミルスタイン(アルゼンチン)免疫機構の発達・調節の理論およびモノクローナル抗体産生方法の研究
- 1985 M・S・ブラウン(米)、J・L・ゴールドスタイン(米)コレステロール代謝の調節に関する研究
- 1986 S・コーエン(米)、R・L・モンタルチャーニ(伊)細胞成長因子の発見
- 1987 利根川進(日)抗体の遺伝的原理説明
- 1988 J・W・ブラック(英)心臓病などの新治療薬開発
- G・エリオン(米)、G・H・ヒッチングス(米)細胞の核酸合成を妨げる新薬の開発
- 1989 J・M・ビショップ(米)、H・E・バーマス(米)ガンウイルスにおけるガン遺伝子の細胞由来の発見
- 1990 J・E・マレー(米)、E・D・トーマス(米)腎臓移植、骨髄移植で何万人の命を救った業績
- 1991 E・ネーアー(独)、B・ザクマン(独)細胞の単一イオンチャネルの機能に関する発見
- 1992 E・クレブス(米)、E・フィッシャー(米)生体制御メカニズムとしての可逆的タンパク質リン酸化の発見

■ 業務会・業務委員一覧

	担当業務委員	
第1回大会 1969(昭44)	テクノコン ヤトロン	
第2回大会 1970(昭45)	テクノコン 中外製薬	
第3回大会 1971(昭46)	テクノコン 日立製作所	
第4回大会 1972(昭47)	二光機材 セントラル科学貿易	
第5回大会 1973(昭48)	今井 省吾 (東芝メディカル) ト部 健 (安部商事) 長藤 昭正 (日立製作所) 物井 恵一 (第一化学薬品) 山田 博 (関東化学)	
第6回大会 1974(昭49)	今井 省吾 (東芝メディカル) ト部 健 (安部商事) 龍池 哲男 (島津製作所) 玉井 哲男 (島津製作所) 長藤 昭正 (日立製作所) 物井 恵一 (第一化学薬品) 山田 博 (関東化学)	
第7回大会 1975(昭50)	ト部 健 (安部商事) 和田 春雄 (島津製作所) 杉村 泰男 (島津製作所) 山田 博 (関東化学) 松井 三郎 (藤沢メディカルサプライ) 水野 昇 (片山化学工業) 長藤 昭正 (日立製作所) 泉谷千代明 (和光純薬工業)	
第8回大会 1976(昭51)	佐野 洋二 (日科機) 新村 哲也 (オリンパス光学工業) 西山 英大 (三光純薬) 和気 栄一 (中外製薬)	
第9回大会 1977(昭52)	上島 英雄 (萱垣医理科工業) 佐野 洋二 (日科機) 新村 哲也 (オリンパス光学工業) 西山 英大 (三光純薬) 山田 光男 (長瀬産業) 吉野 稔 (ペーリランガー・マンハイム・山之内) 和気 栄一 (中外製薬)	
第10回大会 1978(昭53)	赤羽 信一 (日本電子) 川口 正介 (栄研化学) 内藤 聡 (日本テクノコン) 松本 仁人 (中外製薬) 山田 光男 (長瀬産業)	
第11回大会 1979(昭54)	泉谷千代明 (和光純薬工業) 岩谷 勲 (和光純薬工業) 福島 育郎 (島津製作所) 今西 富夫 (島津製作所) 福田 悦磨 (国際試薬) 松井 三郎 (藤沢メディカルサプライ) 水野 昇 (片山化学工業) 藪内 弘 (安部商事)	
第12回大会 1980(昭55)	川口 正介 (栄研化学) 福島 育郎 (島津製作所) 山田 博 (関東化学) 山田 光男 (長瀬産業) 横山 和人 (東芝メディカル)	
第13回大会 1981(昭56)	川口 正介 (栄研化学) 福島 育郎 (島津製作所) 山田 博 (関東化学) 山田 光男 (長瀬産業) 横山 和人 (東芝メディカル)	

	担当業務委員	
第14回大会 1982(昭57)	川口 正介 (栄研化学) 稗園 賢輔 (和光純薬工業) 福島 育郎 (島津製作所) 山田 博 (関東化学) 山田 光男 (長瀬産業) 横山 和人 (東芝メディカル)	
第15回大会 1983(昭58)	川口 正介 (栄研化学) 稗園 賢輔 (和光純薬工業) 福島 育郎 (島津製作所) 山田 博 (関東化学) 山田 光男 (長瀬産業)	
第16回大会 1984(昭59)	川口 正介 (栄研化学) 河村 俊郎 (和光純薬工業) 中島 幸男 (東亜医用電子) 山川 崇 (島津製作所) 山田 博 (関東化学) 山田 光男 (長瀬産業)	
第17回大会 1985(昭60)	田中 俊一 (和光純薬工業) 中島 幸男 (東亜医用電子) 本田 徹朗 (日水製薬) 山川 崇 (島津製作所) 山田 博 (関東化学) 山田 光男 (長瀬産業)	
第18回大会 1986(昭61)	志賀 助貞 (和光純薬工業) 本田 徹朗 (日水製薬) 山川 崇 (島津製作所) 山田 光男 (長瀬産業) 山本 義晴 (東亜医用電子) 渡辺 楷 (ダイアヤトロン)	
第19回大会 1987(昭62)	志賀 助貞 (和光純薬工業) 二本 紘一 (日水製薬) 山川 崇 (島津製作所) 山田 光男 (長瀬産業) 山本 義晴 (東亜医用電子) 渡辺 楷 (ダイアヤトロン)	
第20回大会 1988(昭63)	志賀 助貞 (和光純薬工業) 二本 紘一 (日水製薬) 山川 崇 (島津製作所) 山田 光男 (長瀬産業) 山本 義晴 (東亜医用電子) 渡辺 楷 (ダイアヤトロン)	
第21回大会 1989(平成元)	河村 俊郎 (和光純薬工業) 二本 紘一 (日水製薬) 山田 光男 (長瀬産業) 渡辺 楷 (ダイアヤトロン)	
第22回大会 1990(平成2)	河村 俊郎 (和光純薬工業) 末益美智雄 (オリンパス販売株) 二本 紘一 (日水製薬) 山田 純一 (日立製作所) 山田 光男 (医療新技術普及センター) 渡辺 楷 (ダイアヤトロン)	
第23回大会 1991(平成3)	河村 俊郎 (和光純薬工業) 末益美智雄 (オリンパス販売株) 二本 紘一 (日水製薬) 山田 純一 (日立製作所) 山田 光男 (医療新技術普及センター) 渡辺 楷 (ダイアヤトロン)	

日本臨床検査自動化振興会 役員名簿（第1期）

理事長	茂手木皓喜	
理事	栄研化学(株)	辻本 直明・神津 忠良
	東亜医用電子(株)	和歌 光雄
事務局理事	(株)医療新技術普及センター	山田 光男
	オリンパス販売(株)	末益美智雄
	(株)ダイアヤトロン	渡 辺 楷
	日水製薬(株)	二木 紘一
	(株)日立製作所	山田純一・大保寺 亘
	和光純薬工業(株)	河村 俊郎
監事	服部理男	
	東芝メディカル(株)	青 木 弘
展示委員会	河村 俊郎	和光純薬工業(株)
	末益美智雄	オリンパス販売(株)
	二木 紘一	日水製薬(株)
	山田 純一	(株)日立製作所
	大保寺 亘	(株)日立製作所
	山田 光男	(株)医療新技術普及センター
	渡 辺 楷	(株)ダイアヤトロン

臨床検査の自動化とともに

——日本臨床検査自動化学会25周年記念——

平成5年9月16日発行

発行 日本臨床検査自動化振興会

〒113 東京都文京区本郷3-19-6 ワイユビル6F
TEL(03)5689-5910 FAX(03)5689-5917

JSCLA / JACLA